

キャンドル心つなぐ

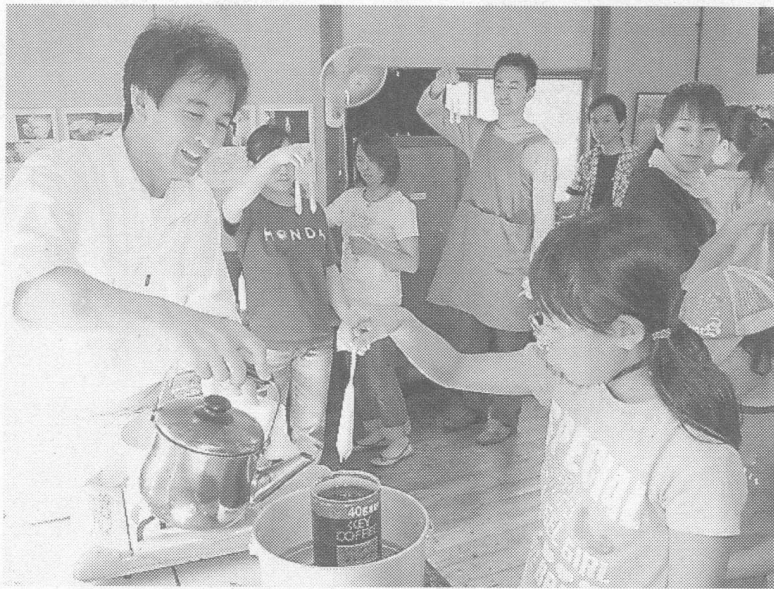
わたしの
一歩
3.11

〈被災地と小さなともしび
でつながりませんか。多くの
人で双子のキャンドルを作
り、片方を被災地の子どもた
ちに届けクリスマススイブの夜
にともしあいます〉

朝日町でろうソク工房「ハチ
子蜜の森キャンドル」を営む
安藤竜二さん(47)は今月初め
から、ホームページ(HP)
でそう呼びかけている。プロ
ジェクト名は「キャンドルリ
ンク3・11」。HPにはイラ
スト付きで作り方も載せてい
る。

16年前――。阪神大震災の
数日後、安藤さんは神戸市な

朝日でろうソク屋を営む安藤竜二さん



キャンドル作りを指導する安藤竜二さん(左)。溶かし
たろうに糸の両端を浸して乾かす作業を1時間ほど繰り
返す＝朝日町立木の工房「ハチ子蜜の森キャンドル」

ど兵庫県の顧客からの電話
で、街が大きな被害を受けた
こととともに、震災前に送っ
たろうソクが役に立っている
と知らされた。

そして考えた。「ろうソク
屋として、自分にできること
はないだろうか」
浮かんだのが双子のキャ
ンドルだった。被災地に思いを

はせながら、みんなで作る。
片方にメッセージを添え、ク
リスマスプレゼントとして被
災地に贈る。

仲間と県内各地の小学校な
どで講座を開き、その冬、作っ
たキャンドル800本を届け
た。翌年も実施し、計1200
人が被災地とつながった。取
り組みは追悼集会「1・17のつ
どい」で恒例となる「竹灯籠」
につながり、今も神戸にキャ
ンドルを贈り続けている。

「3・11」後、安藤さんは
宮城県の被災地にハチミツを
届け、がれきの撤去も手伝っ
た。今回も「キャンドルリン
ク」をしてはどうかと思いつ
いた。しかし「押しつけにな
ってはいけない」と迷ったと
いう。

背中を押したのは、阪神の
仲間たちだった。「1・17の
つどい」の創始者で今年2月
に亡くなった中島正義さんの
妻孝子さん(71)から震災の見
舞金として4万円が届いた。
「テレビを見て震えが止まら
なかった。ろうソク作りを主

人に教えてくれた山形の人た
ちのことが心配で、少しでも
役に立てばと贈りました」と
孝子さん。安藤さんは仲間と
相談し、見舞金を新たなキャ
ンドルリンクの足がかりにし
ようと決めた。

賛同の輪は広がっている。
寒河江高校放送部は作り方の
ビデオを制作し、HPに提供
してくれた。安藤さんの工房
にやって来る若者もいる。友
人と一緒に来た仙台市宮城野
区の遠藤さゆりさん(26)は
「学んだ作り方を広めて、被
災地と仙台市の中心部との温
度差を埋めたい」と話した。
「手作りの小さな灯火には
人々を包む優しい力がある。
学校や職場、家庭などでキャ
ンドル作りが広がってほし
い」と安藤さん。

キャンドルは、作者のメッ
セージとともに被災地に贈ら
れる。安藤さんはその用紙に
こう言葉を添えた。
〈このキャンドルは私が作
った双子のキャンドルの片方
です。クリスマススイブに灯し
てください。私も灯します〉
(西尾邦明)